

御陵の風

令和元年6月発行 学校便り



文責：校長 藤井浩彦

◆「選手激励会」、そして大会はスタートしました！



【選手激励会の様子】

6月6日、中体連大会及びコンクールの「選手激励会」が行われました。吹奏楽部の演奏に合わせ、各部が足並みを揃え、それぞれのユニフォームで堂々と入場しました。各部の部長が、大会・コンクールへ向けての決意表明をしました。「筑前大会出場を目標に！」「力をすべて出し切りたい！」「悔いのないように精一杯戦いたい！」など、それぞれの思いを伝えました。3年生にとっては、最後の大会・コンクールになります。最後の最後まで諦めず、御陵中生徒として最高のパフォーマンスをしてほしいと思います。

早速、6月8日に行われた筑紫区中体連陸上大会では、3年生800m出場の石川夕夏さん、2年生800m出場の平田あゆ美さんが、筑前地区大会出場を決めました（筑前地区陸上大会は、7月20日に博多の森陸上競技場で行われます）。おめでとうございます！これから各部で大会・コンクールが続きますが、保護者の皆様にはたくさんのご支援とご声援をいただきますよう、よろしくお祈りいたします。

筑紫区中体連総合体育大会

競技名	月日	会場	競技名	月日	会場
野球	6月22日(土)	大佐野野球場	男子バレー	6月29日(土)	学業院中
	6月23日(日)			6月30日(日)	
ソフト	6月22日(土)	太宰府高校	女子バレー	6月29日(土)	春日中
	6月23日(日)			6月30日(日)	
サッカー	6月22日(土)	福岡農業高校	剣道	7月6日(土)	筑山中
	6月23日(日)			7月7日(日)	
男子バスケット	6月29日(土)	筑紫野南中	水泳	6月29日(土)	二日市中
	6月30日(日)				

※硬式テニス・新体操は筑前大会から、空手は県大会からです

地区吹奏楽コンクール	吹奏楽部	7月22日(月)・23日(火)	福岡市民会館
------------	------	-----------------	--------

※上記の大会・コンクールの結果でその後の日程・会場が決まります

学校の詩③

『絶対にあきらめない！』

6月6日の選手激励会で私は、15年ほど前に私がバレー部で出会ったある男の子の話をさせてもらいました。

彼は、小学校のときからバレーボールをしていました。新チームになってキャプテンになった彼には、「他の人の倍、いや5倍頑張りなさい」と半ば無茶なことを私は言いました。しかし、彼はとことん練習に励みました。毎日毎日、自分が納得するまで練習しました。チームメイトは、ほぼ全員が、中学生になってバレーボールを始めた生徒、むしろ運動が苦手な生徒もいました。その中で、彼はチームの中心として頑張り続けました。そして、迎えた3年生最後の夏…そのときのそのチームの平均身長は、160cmほどでした。中学生男子のチームとしてはとても小柄なチームです。彼が一番身長が高くそれでも169cmでした。どのチームにも負けないぐらい練習した彼らは、筑紫区大会を優勝し筑前地区大会へ進みました。そして迎えた準々決勝…1セット目を勝利し、2セット目終盤あと少しで県大会出場が決まるときでした。彼が、突然太ももを痛めジャンプだけでなく歩くことすらままならない状態になったのです。

普通なら交代するところですが、彼に変わるような選手はいませんでした。そのセットをとられたら、3セット目は間違いなくとられ、即3年生引退となる所でした。相手のミスもあり、なんとか勝利しました。彼は、すぐに両親に連れられて病院にいきました。

その日の夜、私は眠れませんでした。明日の準決勝、彼抜きで勝つことが困難なことは明白でした。私は明日の朝、彼にこう言おうと考えていました。「胸を張って、3位の賞状をもらおう。そして、早く治して県大会でまた頑張ろう」と。

次の日の朝、集合時間前に彼が、私のところへ足を少し引きずりながらきました。彼に「痛いだろうか？今日はいいいから…」と言うと、こう返事が返ってきました。「先生、少し痛いですが大丈夫です。とにかく出させてください。どうしても出場して優勝したいんです」彼のあまりに真剣な鋭い眼差しに、指導者としての私は迷いました。彼の母親は「息子の意思を尊重したいので、私からもお願いします。迷惑なときは、すぐに交代させてもらってかまいませんから」私はそれでも迷いました。もう一度彼に確かめ「無理なときは、必ず言うんだぞ！」と告げ、彼を出場させることにしたのです。

そして、準決勝。相手は身長180cmくらいの選手が3人もいるような超攻撃的なチームでした。しかし、彼は昨日のことが夢だったかのようにコートで輝いたのです。彼のケガで弱気になっていた他の選手達は、彼のプレーに勇気をもらったのか、彼に負けないぐらいの気迫あるプレーをしました。準決勝をストレート勝ちし、決勝に進みました。決勝戦の相手は、筑紫区大会でもフルセットで戦ったチームでした。筑前地区大会決勝戦、またしてもフルセットになりました。3セット目終盤まで、一進一退の攻防が続きました。そして、中盤から彼のスパイクを起点に一気に抜け出しました。私は、心の中で「あ！優勝する…。この子達、なんてすごいんだ。こんな小柄なチームが…。そして、昨日は抱えられながら病院に行ったあの子が、あんなにすごいプレーをしている」走馬燈のように彼らとの苦しい練習の日々が、負け続けたあの日々が思い出されたのです。まだ試合は終わっていないのに、私は、体の震えと胸の高鳴りを抑えることができませんでした。私は、目の前の子ども達の頑張りを感じていたのです。見事、優勝しました。彼らと抱き合い喜びました。その1週間後の県大会、残念ながらベスト16で彼らの夏は終わりました。試合後、珍しく不調だった彼は、泣き続けました。そして、言うのです「みんな、ごめん。俺のせいで負けた」「先生、すみません。僕のせいです。」と。私は「それは違うよ。あなたのおかげで優勝旗を2本ももらい県大会にも連れてきてもらった。あなたのおかげでこんなに素晴らしい忘れられない思い出ができたよ。ありがとう。胸を張って帰ろう！本当によく頑張ったね！」彼は、少しだけ顔をあげました。

彼は、高校でもバレー部に入りチームの中心として活躍しました。3年生のときには、公立高校生で唯一国体選手として選ばれ全国大会に出場しました。卒業後は仕事をしながらバレーボールを今現在も続け、そのチームで何度も全国大会へ出場しています。

一昨年、彼から「先生、結婚することになりました。結婚式にぜひ来てください」と久しぶりに電話がありました。案内状は、直接持参したいと、奥様になる人を連れて前任の学校に来てくれました。素敵な青年になっていました。たくさんの友人や知人に囲まれ、彼は心温まる素敵な結婚式をあげました。彼は、私の席を主賓の揃うテーブルにするなどの心遣いまでしてくれました。

彼から、私はたくさんのことを教えてもらいました。「努力することの大切さ」「最後まで強い気持ちで粘り強く挑戦することの素晴らしさ」「人を大切にすること」「礼を尽くすこと」…そして、やっぱり「人間には無限の可能性があること」です。彼は人として大切なことをバレーボールを通して学んだのだと思います。

御陵中のすべての子ども達が、それぞれのステージで粘り強く、生き生きと輝いて、そして活躍してくれることを心から願っています…

そうそう…先週土曜日に、福岡市民会館で行われた吹奏楽祭に出演した、吹奏楽部の演奏を聴きに行きました。音楽の専門的なことは私にはわかりませんが、心の伝わる素敵な演奏にじーんときて涙が出そうになりました。子ども達の気持ちが一つになり、伝えようとする思いがしっかりと胸に響く演奏でした。先ほど、廊下で出会った吹奏楽部の生徒が「校長先生、土曜日は聴きにきてくださってありがとうございました！」と笑顔で声をかけてくれました。私がつてもうれしい気持ちになったことは言うまでもありません…御陵中の子ども達、とっても素敵です！

(校長：藤井浩彦)